

## 在宅医療連携推進委員会の現状と未来

江 角 小百合

キーワード：鳥根県在宅医療推進事業；多職種連携；地域住民への普及啓発

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 183-184)

### はじめに

在宅医療連携を推進するための拠点病院として、地域の医師、介護支援専門員等の多職種が連携できる体制を構築し、地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目的として2014年5月に設置された。委員会のメンバーは院長、看護部長、訪問事業課長、保健推進課長、情報管理課長、総務係長、地域連携係長で構成されている。

### 活動の経緯

この委員会が設置された背景には、当院が2013年度から3年間鳥根県の「在宅医療推進事業」のモデルとなったことがきっかけであった。この事業は在宅医療を提供する機関等を連携拠点として、地域の医師、歯科医師、薬剤師、看護職員、介護支援専門員（ケアマネージャー）などの多職種が連携して在宅医療の支援体制を構築し、地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指すとともに、今後の在宅医療に関する施策の均てん化などに資することを目的に鳥根県下で始まった。そこで院内での協議等進めていくために

委員会を立ち上げ在宅医療推進のため色々な事業展開を行ってきた。

主に多職種連携の課題に対する解決策の抽出、在宅医療従事者の負担軽減の支援、効率的な医療提供のための多職種連携、在宅医療に関する地域住民への普及啓発、在宅医療に従事する人材育成などを協議してきた（図1）。2016年からは病院から訪問診療も開始となり、在宅医療推進は確実にできていると考えている（図2）。この委員会の位置づけは、在宅医療推進に関する新たな事業の計画や協議が発生したときに開催することとし、現在はワーキングで課題抽出や改善策を協議している。

### 今後の展望

今後は、雲南圏域の診療所医師の高齢化や後継者不足に対応するため、診療所医師のバックアップ体制を構築するべきと考えている。また、医療を取り巻く環境が激変する中、資源が少ない地域で在宅医療をどう進めていくのか、この委員会が中心となり検討していきたい。

在宅医療連携推進委員会

(様式 2) 患者連絡票 (在宅療養後方支援病院)

当院 ID: 100702

令和元年 7 月 12 日現在

連携医療機関名  
雲南市立病院附属総合診療所 御中

平素は医療連携におきましてご高配を賜りありがとうございます。  
さて、当院入院希望登録いただいております下記の患者さまについて、現時点での診療情報の提供をよろしくお願いたします。  
なお登録内容に変更がありましたら、変更内容をご記入ください。

患者さまの情報  
氏名  
性別  
生年月日  
年齢  
住所  
在宅療養の継続 有 無  
入院希望継続 有 無  
特記すべき診療情報 有 無

(特記すべき診療情報がある場合は、その内容)  
5/4 急性心不全

上記ご記入の上、FAXまたは郵送にて地域連携室にお送り頂きますようお願い致します。  
雲南市立病院 地域連携室

図 1 各診療所との在宅医療患者の情報交換シート

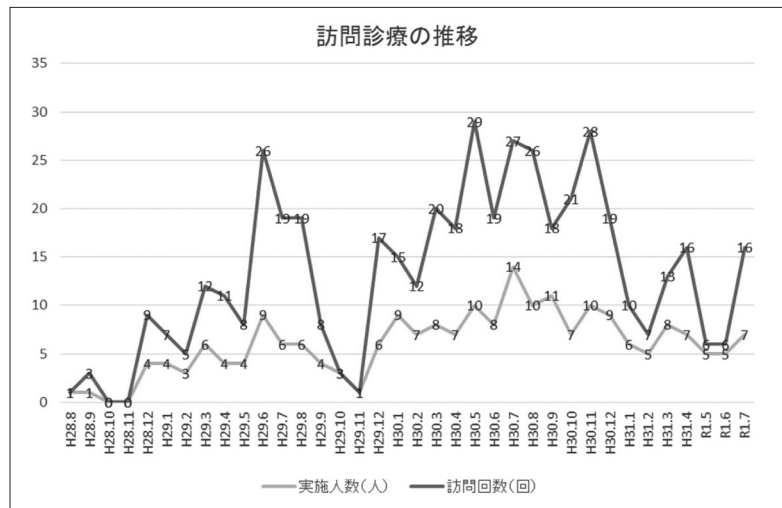


図 2 訪問診療件数の推移

Present status and future perspective of the committee for home health care cooperation promotion in Unnan City Hospital.

Sayuri Esumi

Committee for home health care cooperation promotion, Regional cooperation office, Health care center, Unnan City Hospital  
Correspondence: Sayuri Esumi, Regional cooperation office, Health care center, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]  
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501  
E-mail: hospital-renkei@city.unnan.shimane.jp